

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献

ATM遠隔ログ収集システム

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。富士通のパーパス「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていこう」とは、SDGs達成への貢献を社内外に約束するものです。富士通は、長年にわたりテクノロジーを通じて社会に価値を提供してきたグローバル企業として、社会の変革に主体的に貢献する責任があります。世界をより持続可能にするために、社会に対して、より良い、かつスケールの大きなインパクトを与え、自社も持続的に成長していくことを目指しています。富士通は、2023年5月に発表した中期経営計画において、2030年に向けた価値創造の考え方を示しました。必要不可欠な貢献分野（マテリアリティ）の「地球環境問題の解決」「デジタル社会の発展」「人々のウェルビーイングの向上」への取り組みを通じ、SDGsへの貢献を目指します。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」（Sustainable Development Goals : SDGs）を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030 年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。

ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。



「環境貢献ソリューション」認定制度のご紹介

富士通は、富士通グループが提供するソリューション・サービスの導入によるGHG排出量の削減効果を定量評価し、削減効果が15%を上回る商品を「環境貢献ソリューション」として認定してきました。現在もGHG排出量の削減効果を算定し毎年報告しています。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/environment/sustainability-contribution-list/>

環境貢献

検索



環境貢献ソリューション

ATM遠隔ログ収集システム

・ATM遠隔ログ収集システムは、ATMサービス基盤に搭載された機能のひとつで、ATM障害発生時に、調査用ログをサーバからの遠隔操作で収集するシステムです。従来、障害発生時に保守作業員がATM設置場所に赴き調査用ログを収集するという現地作業が発生していましたが、当システムを導入することにより遠隔操作のみでログを収集することが可能になりました。今回、保守作業員による現地作業の削減を図ったことによる業務効率化（移動・作業時間の短縮）をCO₂排出量として評価しました。

「環境貢献ソリューション」の提供により、SDGsへ貢献します。

「環境貢献ソリューション」の取り組みは、目標13：気候変動へのアクション（気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。）への対応として、推進しています。富士通グループは、「環境貢献ソリューション」の提供を拡大し、SDGsに貢献します。



ATM遠隔ログ収集システムによる業務の効率化と環境負荷の低減

システム概要

ATM遠隔ログ収集システムを導入することで、ATM導入先のお客様や保守作業員の作業負担を軽減します。

従来、ATMの障害発生時に動作の詳細調査を行う場合、保守作業員が設置場所まで赴き、お客様立ち会いのもと稼働中のATMを停止し、媒体によるログの収集を行っていました。当システムでは、運用センターのオペレータからの指示によりログをサーバへ転送することができるため、保守作業員が現地でログ収集を行う必要がなくなり、お客様の立ち会いも不要となります。

これにより、保守作業員の現場への移動と作業および、お客様の立ち合いに要する時間の削減が図れます。結果として、人の移動や作業工数により発生するCO₂の削減につながります。また、ATMを停止させずにログが収集可能となるため、エンドユーザーの取引機会損失を防止できます。

効果

・CO₂排出量の削減効果：約98% ※富士通フロンテック試算

[①人の移動量の削減]

保守作業員の移動の削減：約10,000km／年

[②作業工数の削減]

【導入前】 お客様・保守作業員の作業時間：約500時間／年

【導入後】 運用センターの作業時間：約 25時間／年

⇒約475時間／年の削減

[③物の消費量の削減]

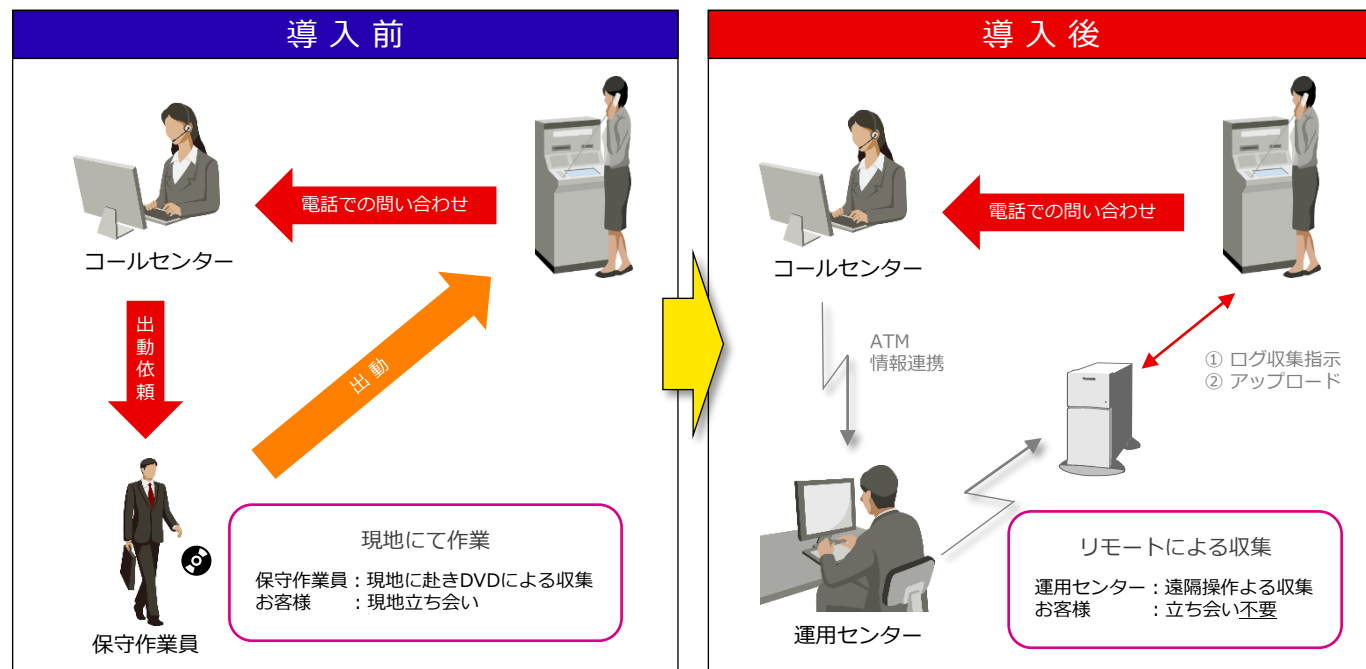
ログ収集用DVDの削減：約250枚／年

※上記の効果は、現時点で富士通フロンテックが試算したものであり、システムの特性により結果が異なることを予めご承知おきください。

「ATM遠隔ログ収集システム」の導入によって、何故、環境負荷が減るのか？

以下の効果があります。

- ① 運用センターのオペレータからの指示によりログはサーバへ転送されるため、保守作業員の移動と現地での作業が不要になります。
- ② 調査ログは直接サーバに転送されるため、ログ収集用のDVDなどの媒体を削減することができます。



お問い合わせ先

富士通フロンテック株式会社

ファイナンス&リテール事業本部 第一ソリューション事業部

Webによるお問い合わせ： <https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/contact/>